

群馬パーセントフォーアート「空想」フォーラムの開催について

A.I.をはじめとするデジタル技術の進歩により「できること」は増えている一方「やりたいこと」を構想し膨らませる空想力はどうでしょうか。

日本は空想力に優れたマンガ・アニメを数多く生み出し、世界から認められています。未来を思い描く力の源泉は空想力にあると考えられます。

全国初の「群馬パーセントフォーアート推進条例」を制定し、新たな価値の創造を応援する群馬県では、この度、「空想」を探求するフォーラムを開催いたします。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

1 日時

令和8年1月17日（土）14：00～15：30（開場：13：30）

2 開場

Gメッセ群馬中会議室 301（高崎市岩押町12-24）

3 参加費／定員

参加無料

定員 50名（先着順）

4 テーマ

空想都市ぐんまの創造

～空想家が集まる、空想力溢れる群馬県を目指す～

テーマ：空想とは何か

5 申込方法

以下の申込フォームからお申し込みください

[群馬パーセントフォーアート「空想」フォーラム 申込フォーム](#)



6 登壇者

○ 金山淳吾（かなやま じゅんご）

群馬パーセントフォーアート推進会議 委員／（一社）渋谷未来デザインジェネラルプロデューサー



電通、ap bank でのプロデューサーを経てクリエイティブアトリエ TNZQ を設立。2016 年より一般財団法人渋谷区観光協会の代表理事として渋谷区の観光戦略・事業を牽引。2018 年、一般社団法人渋谷未来デザインの設立を牽引し、設立時理事として参画。クリエイター、企業、行政を横断し、社会の可能性を拓くプロジェクトを多数推進している。

○ 手塚 真（てづか まこと）

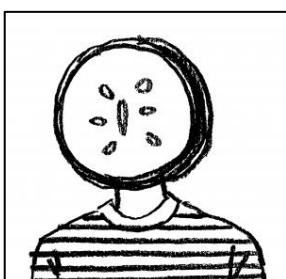
ヴィジュアルリスト／映画監督／（株）手塚プロダクション取締役



1961 年東京生まれ。高校時代から映画制作を始め、数々のコンクールで受賞。1985 年『星くず兄弟の伝説』で商業映画監督デビュー。1995 年富士通の PC ソフト『TEO～もうひとつの地球』をプロデュース。19 か国で 50 万本のヒットとなる。1999 年『白痴』がヴェネチア国際映画祭で上映されデジタル・アワード受賞。2020 年『白痴』公開 20 周年を記念したデジタルリマスター版と手塚治虫原作の『ばるぼら』が全国公開。テレビアニメ『ブラック・ジャック』では 2006 年東京アニメアワードのテレビ部門優秀作品賞受賞。AI を使って手塚治虫の漫画を描く「TEZUKA2023」プロジェクトでは総合ディレクターを務める。宝塚市立手塚治虫記念館名誉館長、一般財団法人手塚治虫文化財団代表理事など、手塚治虫遺族としても活動している。著作に『父・手塚治虫の素顔』（新潮社）他。

○ 山田胡瓜（やまだ きゅうり）

漫画家



元 IT ニュース記者という経歴を持ち、テクノロジーと社会の関係性を描く SF 作品を得意とする。2012 年「アフタヌーン四季賞」四季大賞を受賞しデビュー。代表作『AI の遺電子』は第 21 回文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞を受賞し、2023 年に TV アニメ化された。

○ 山本一太（やまもと いちた）

群馬県知事

7 問い合わせ先

群馬県 地域創生部文化振興課 文化企画係

TEL：027-226-2592 / E-mail：bunshinka@pref.gunma.lg.jp

